

平成 28 年 3 月 24 日
国立情報学研究所
学術コンテンツ課

SCOAP³ フェーズ 2 (2017-2019 年) への対応について

1. フェーズ 1 (2014-2016 年) のまとめ

- (1) 日本から 34 機関が参加
- (2) 日本に求められている拠出総額 390,500 ユーロの全額を拠出できていない。これには以下のような要因が考えられる。
 - (ア) 拠出総額は国別論文数から算出されたが、拠出金は購読料から振替えており、差が生じるのは予想していた。
 - (イ) ユーロ建て拠出額算出時から、その後円安傾向になった。
 - (ウ) フリーライダーの存在。48 機関の内、14 機関が不参加。
- (3) 図書館以外の組織や研究者コミュニティからの支援が弱い。

2. フェーズ 2 に向けて

(1) SCOAP³ 運営委員会

2015 年 12 月に SCOAP³ の Governing Council (GC) が開催 (安達 NII 副所長出席) され、以下のような方針が提案され、意見交換が行われた。

- (ア) 国ごとの拠出総額の算出の基本的な考え方は、フェーズ 1 同様、国別論文数である (但し、APS の論文を除く)。 → この方針で行くことに決定。
- (イ) 国別負担額の日本の順番は、米国、ドイツ、中国、日本と順位が一つ下がったが、論文数は増え、負担割合はほぼ変わらない状況。
- (ウ) 全体的に論文投稿数が増加傾向であるため、そのことを勘案して、原則としてフェーズ 1 の拠出総額より $2\% + \alpha$ 増額する。 → 継続して検討。おそらく 2016 年 6 月の GC で決定。

(2) 対処すべき日本の課題

- (ア) フェーズ 1 の不足額への対応
- (イ) フェーズ 2 の拠出総額増加の国内協議
- (ウ) 日本から対象誌として選定されている雑誌への対応

(3) 進捗状況

2015 年 12 月の SCOAP³ GC での検討状況を日本に持ち帰り、1 月 14 日 (木) に開催された平成 27 年度第 2 回国公立大学図書館協力委員会常任幹事館担当者打ち合わせの場で問題提起を行い、常任幹事館で扱いを検討することとなった。3 月 16 日 (水) に開催された常任幹事館の打ち合わせにて、国別シェアの状況と負担について検討され、CERN 提案に賛成することが承認され、3 月 18 日 (金) の GC で CERN 提案に賛成した。